エル・コロナド　秘境の神殿

2004（平成16）年５月30日鑑賞〈ユウラク座〉 ★★★

監督＝クラウディオ・ファエ／出演＝クリスティン・ダッティーロ／クレイトン・ローナー／マイケル・ロウリー／ジョン・リス＝デイビス（日活配給／2003年アメリカ・ドイツ合作映画／88分）

……中央アメリカにあるエル・コロナドは、砂漠と密林が大半を占める国。そこで対立するのは、独裁者のラモス大統領と、すでに国内の４分の１を支配した反乱軍。婚約者を追って、アメリカ人女性のクレアがやってきた……。秘境の地エル・コロナドで展開される、TV リポーターのアーネットとクレアを中心とした夢と冒険の大ロマン。果たして革命は成功するのか……？

低予算による豪華アドベンチャー映画

パンフレットによれば、「本作は『マイ・ビッグ・ファット・ウェディング』並の予算で、『タイタニック』クラスのクオリティ作品を作り、インディペンデント映画の新しい製作体制を確立したはず」と自負している。そして、それを実現したのは、CG による630カットにも及ぶ合成作業とのこと。確かに、この冒険スペクタル映画には、巨大な神殿や、ヘリコプター、戦車の戦闘シーン、そして、崩れていく高くて長い丸太橋のシーンなど、CG をふんだんに使ったシーンが満載。役者は、この CG 合成の背景に合わせた演技が要求されるのだが、それをうまくやれば現地ロケなどは不要となり、低予算でオーケーとなるわけだ。

2004年５月に公開された超大作『トロイ』は、地中海のマルタ島に巨大なセットを組んだが、群衆シーンでは CG をふんだんに使っている。また、昨年の大ヒット作『HERO（英雄）』も同様で、いまや、スペクタル巨編には CG の活用が不可欠……？　もっとも私は、この CG の大流行現象には NO と言いたいが……。

珍しい、女性を主人公とした冒険映画

この映画の主人公は、婚約者を捜す女性クレア（クリスティン・ダッティーロ）。大事な書類を忘れてスイスに向かった婚約者ウィル（マイケル・ロウリー）を驚かし、一緒にクリスマスを過ごそうと考えて、スイスに向かったクレアは、何とウィルがスイスにいないと知らされてびっくり。これはきっと、クレアに内緒の浮気旅行……？　誰もがそう思うはず。しかし……。そこで登場したのは中央アメリカにある国、エル・コロナドの資料。一体、婚約者のウィルはそんなところで何をしているのだろうか……？

クレアの行動力は抜群。クレアは自分もウィルの後を追ってコロナドに行くことを即決。独裁者のラモス大統領（ジョン・リス＝デイビス）率いる政府軍と、全国土の4分の1を支配下に入れた反乱軍が対決している状態のコロナドの空港へ。そこで出会った男が、コロナドで2年間も取材を続けているTVリポーターのアーネット・マクルア（クレイトン・ローナー）。そして、何としても特ダネをスクープするため、ジャングルの奥地にある反乱軍のアジトへ突入しようとするアーネットにクレアも同行することに……。その行く手に待ち受ける数々の危険を2人はどのようにクリアしていくのだろうか……？

アドベンチャーワールドを楽しもう！

特ダネ取材のためにジャングルの奥地深く入り込んだアーネットと、婚約者を見つけ出すためこれに同行したクレアには、『インデペンデンス・デイ』（96年）、『インディ・ジョーンズ（シリーズ）』（81年、84年、89年）を彷彿させるアドベンチャーワールドが次々と展開される。ハラハラ、ドキドキの連続だが、結果オーライと分かっているのだから、面白おかしく楽しめばいい。ジャングル奥地のアジトにいたアメリカ人はやはりクレアの婚約者のウィル。彼は、アメリカ政府から秘密の任務を受けて、武器を反乱軍に提供していたというのだが……？　さて、その真偽は……？　様々な冒険をくり返しながら、アーネットとクレアの2人は次第に反乱軍と政府軍の対決に巻き込まれていき、ついにはラモス大統領と対決する羽目に……。さて、その結末は……？　2004（平成16）年5月31日記